

《2号機における地震後の設備健全性確認点検の記録不備に係る原因と対策について》

原子力規制委員会による平成26年度第2回保安検査（平成26年9月1日～9月12日）において、2号機の地震後の設備健全性確認点検*における記録の不備が確認されたことを受け、当社は速やかに経営層を含めた全社的な体制を構築し、点検記録の再確認を行うとともに、社外有識者の方々からのご意見も踏まえながら、組織や業務運営上の問題点の詳細な分析（根本原因分析）と対策の検討を進めてまいりました。（対策の概要は以下のとおり）

地域の皆さまをはじめ関係の皆さまにご心配をおかけしており、深くお詫び申し上げます。私どもは、原子力に携わる事業者には高い業務品質が求められることを改めて認識し、今回策定した対策の着実な実行により、原子力品質保証活動の一層の強化に努めてまいります。

●原因

発電所等の業務運営を担う「業務実施個所」において、品質保証活動の取り組みに弱いところがあり、これが今回の地震後の設備健全性確認点検において、記録の不備として顕在化したものと考えております。

<根本原因>

- ・ 新たな業務でミスを防止するための組織的な備えが不足
- ・ 定常業務での管理手法を新たな業務へ応用する力が不足

●対策

「業務実施個所」の品質保証活動を強化するとともに、この活動に対する監査機能も強化し、対策の実施状況を計画的に確認してまいります。また、当社と協力企業間でコミュニケーションを深め、適宜必要な改善を図りながら、対策の確実な浸透・定着を図ってまいります。

<根本対策（根本原因を踏まえた対策）>

- （業務実施個所）・ 相互連携を強化し、ミスを「未然に防ぐ」、ミスに「気づき」「改善する」
- ・ 教育に厚みを加え、新たな業務の「実践力を鍛える」
- （内部監査個所）・ 専門的な目を強化し、業務を「チェックする」

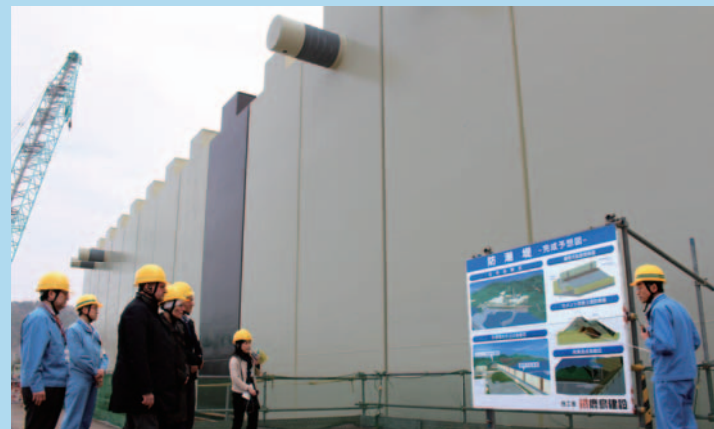
*地震後の設備健全性確認点検とは、東北地方太平洋沖地震が発電所に与えた影響について、原子炉施設保安規定に基づき、設備や機器の健全性の確認方法や時期等を定めた「特別な保全計画」を策定し、平成23年8月から実施しているものです

《第3回国連防災世界会議の参加者が発電所視察に訪れました》

3月17日、仙台市で開催されていた第3回国連防災世界会議の参加者が当発電所を視察しました。

南アフリカ、スイスおよびドイツから参加した3人は、震災時の状況や安全対策をまとめた映像を視聴後、かさ上げ工事が進む防潮堤や、女川3号機を視察しました。

参加者からは「発電所の安全性を確保するために、数多くの取り組みがなされていることを見る事ができた」「東日本大震災に見舞われた現地に直接来て、自分の目で現場を確認し、良い経験となった」などの発言がありました。



防潮堤の工事現場を視察する参加者



視察後に行われた意見交換の様子

《女川町 まちびらき・復幸祭が開催されました》

3月21日と22日、女川駅前広場を中心に女川町の「まちびらき（主催：女川町）」および「女川町復幸祭2015（主催：同実行委員会）」が開催されました。

21日にはJR石巻線全線が再開し、新しい女川駅が開業したほか、22日には同駅に併設された町営「女川温泉ゆぽぽ」もオープンするなど、町内では両日にわたり、記念の式典やイベントが開催され、多くの方々が賑わいました。

今年で4回目を迎える「復幸祭」はまちびらきのお祝いも兼ねて開催され、郷土芸能やヒーローショー、ゲストによる多彩なステージが繰り広げられました。焼きサンマ2000匹が無料で振る舞われたほか、女川のグルメや物産品の販売、パネル展示なども行われました。

「復幸祭」に登場した当社キャラクター「マカプウ」や、大型遊具「ふわふわマカプウ」は、子ども達に大人気でした。



新規制基準適合性審査状況のお知らせ（3月末現在、39回開催）

《外部火災の影響評価について》

女川原子力発電所では、これまでに森林火災や近隣の産業施設火災・爆発、航空機落下による火災などについて原子炉施設に影響を及ぼさないものと評価しています。このうち、森林火災の延焼防止策として、幅20mの範囲の樹木を伐採、除草する防火帯を敷地内に設定します。



防火帯設定図（赤帯部）

防火帯

- ・気温や風速などの気象データおよび樹木の種類、林齢を基に、防火帯幅を決定
- ・延焼の防止に加え、原子炉施設への有意な影響を与えないことを確認
- ・山林部では伐採後の土砂流出等を考慮し、現場状況に応じてモルタル吹付工を実施



モルタル吹付工の施工例

審査会合の詳細は当社ホームページをご覧ください。

東北電力 女川審査会合

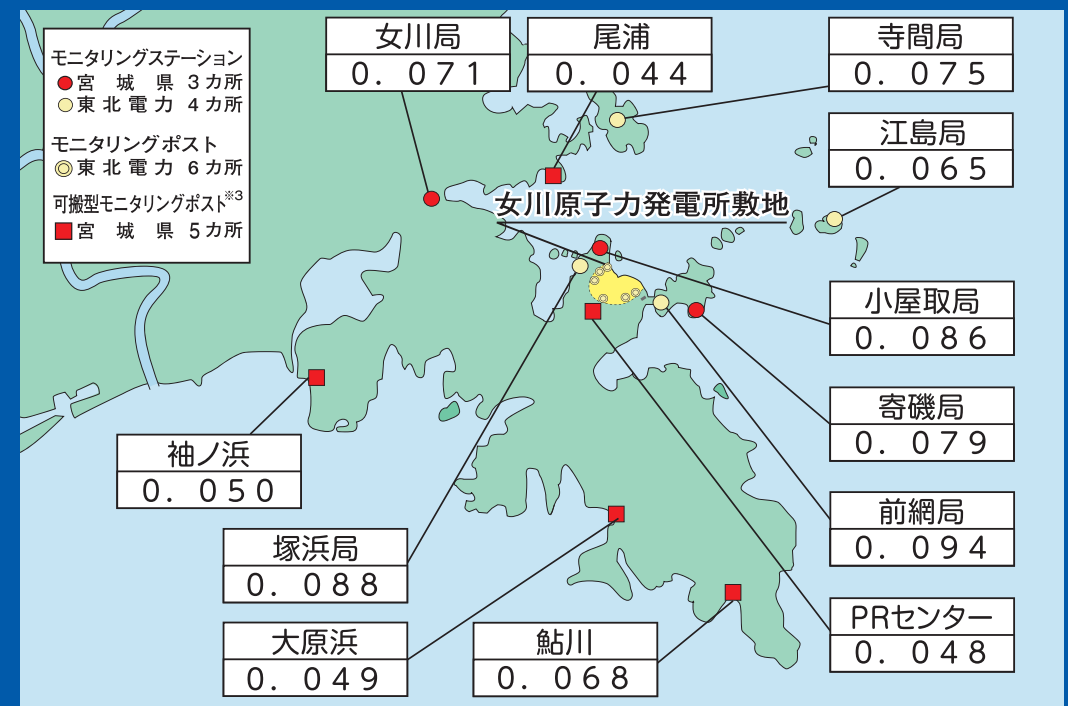
検索

《女川原子力発電所周辺の放射線量は安定しています》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社ホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、最大で0.063マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。

モニタリングステーションの測定状況（3/31現在）



単位：マイクロシーベルト/時

（参考）モニタリングポストの最小値と最大値

〈東北地方太平洋沖地震発生日〉	
平成23年3月11日	0.027~0.064
〈地震発生後最大値〉	
平成23年3月13日	1.8~21 ^{※4}
〈地震発生以降毎年度（4/1）の値と至近値〉	
平成24年4月1日	0.063~0.098
平成25年4月1日	0.055~0.076
平成26年4月1日	0.046~0.065
平成27年3月1日	0.043~0.072
平成27年3月31日	0.043~0.063

単位：マイクロシーベルト/時

※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日（平成23年3月13日）の値、毎年度（4月1日）の値、至近の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて気象データを測定しています。

※3 宮城県では、震災により測定不能となっているモニタリングステーションの代替として、可搬型モニタリングポストによる測定を行っています。

※4 東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い測定されたもので、測定された時間は約10分間です。